

事務事業評価

平成 24 年度

担当グループ 学校教育グループ

基本事項	事務事業名	幼児ことばの教室設置事業				整理番号	2201		
	根拠法令等					実施を義務付ける規定	○あり ●なし		
	関連する市勢振興計画の基本計画	章	第7章 生きる力と創造力を持った人を育てる	予算科目	款	項	目	◎継続 ○新規	
		節	第1節 就学前教育の充実	事業区分	市民サービス事業				
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	「ある音が正しく発音できない、同じことばを続けて話す、引き伸ばして話す、話し始めの音がつまって言いにくい。」などことばがはっきりせず言いにくい幼児を対象として、指導及び相談の要望がある。				計画期間	始期	平成 11 年から	
	事業の対象及び目的 (誰に、何を、どのような状態にしたいのか)	言葉に障害のある幼児に関する指導及び相談を行うことにより、障害の除去、改善及び克服を図るとともに、心身の健やかな成長をめざすため、島原市幼児ことばの教室を設置する。				終期	平成	年まで	
	目的達成のための手段・方法	聴覚及び言語に関する教育的相談、幼児への直接的指導並びに保護者に対する指導及び相談、専門的治療期間等との連携に基づく指導を「幼児ことばの教室」で行う。							
	成果指標 (意図する状態の達成度を図るものさし)	名称等(内容)				単位	22年度	23年度	24年度
		①前年度から引き続き入室の4名を入れて、20名(構音の誤り16名、吃音2名、言語発達遅滞2名)が入室し、指導の結果16名が退室することができ、4名は継続指導となった。 ・構音の誤り消失による退室10名 ・ことばの不明瞭さ改善による退室1名 ・第二小ことばの教室入級4名 ・第二小特別支援学級入級1名				目標			
	活動指標 (意図する状態達成のために実施する活動等)	①聴覚及び言語に関する教育的相談、幼児への直接的指導並びに保護者に対する指導及び相談を行う。 ・教育相談17件(構音の誤り13、吃音2、広汎性発達障害1、ことばが出ない1)				実績	人	11	16
②				達成率	%	64.0	80.0		
事業費等の推移	年度		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画	
	①直接事業費(千円)		837	806	775	769	879		
	財源内訳	国県支出金							
		地方債							
		その他							
		一般財源	837	806	775	769	879	0	
	②従事職員給与費 b1×b2		0	0	0	0	0	0	
	従事職員数(人) b1								
	職員平均人件費 b2		7,153	7,162	7,168	7,200	7,200		
事業費合計 ① + ②		837	806	775	769	879	0		

【1次評価】

◎事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
目的 妥当性	①住民ニーズの変化等により事業の必要性や役割は変わっていないか	A=変わっていない B=一部変わった C=変わった 昨年度より入級者数も増えるなど幼児ことばの教室へのニーズが大きい。	判定 A
	②事業を民間（NPO、市民、ボランティア等）に任せることはできないか	A=可能でない B=一部は可能 C=可能である 現在は受け皿となる民間団体はない。	B
	③対象等は事業目的に見合っているか、拡大や絞込む必要はないか、見直しによる費用対効果の向上が図られないか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 D=適切ではない 言葉に障害のある幼児に関する指導及び相談の件数が増えている。	A
有効性	④事業の実施により初期の目的や目標がどの程度達成されているか	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 入室者20名中16名が退室できた。不十分な幼児は、二小ことばの教室へ入級している。	A
	⑤成果の状況を踏まえ、手段等を工夫したり事業内容を見直すことで、成果をさらに向上させる余地はありませんか	A=十分成果が得られている B=検討の余地あり C=見直しが必要 軽度の発達障害の疑いのある幼児の相談があり、関係機関との連携が必要である。	A
効率性	⑥活動量や成果を下げずにコストを削減できないか、投入された資源量に見合う結果が得られているか、改善の余地はありませんか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 指導者が1名であり、ほとんどが人件費となっている。	A
	⑦事業の効率性を上げるため、他の事業との統合や事務の省力化など見直す余地はありませんか	A=見直す余地はない B=統合等、検討の余地あり C=見直しが必要 幼児ことばの教室は、市内1教室であり、保健センターと連携をとりながら進めている。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 幼児ことばの教室に、軽度の発達障害の疑いのある幼児の相談があり、関係機関との連携が必要である。	B
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されていますか。全体コストから見て受益者の負担割合は適切か、使用料等の見直しの余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 幼児及び保護者の要望により、言葉に障害のある幼児に関する指導及び相談を行い、障害の改善を図っている。対象者の負担なし。	A
⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要			
			判定評点平均 A=3、B=2、C=1、D=0として換算 2.50

◎総合評価

評価結果	● A 継続実施(特段の見直しは行わない)	判断理由 20名(構音の誤り16名、吃音2名、言語発達遅滞2名)が入室し、指導の結果16名が退室することができた。教育相談も17件があり、言語に関する教育的相談、幼児への直接的指導並びに保護者に対する指導及び相談も効果的に行うことができた。言葉に障害のある幼児に関する指導及び相談を行うことにより、障害の除去、改善を図るとともに、心身の健やかな成長をめざすことができた。
	○ B 改善・見直しを行う	
	○ B1 事業規模の拡充	
	○ B2 事業規模の縮小	
	○ B3 事業内容の改善・見直し	
○ B4 その他の見直し		
○ C 休止(隔年実施などへの変更)		
○ D 廃止(終期の設定等を含む)		
今後の課題及び改善策、見直しの状況	(実施上の課題等) 軽度の発達障害の疑いのある幼児の相談があり、関係機関との連携が必要である。	
<small>・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載ください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。</small>		

【2次評価】

総合判定	A 継続実施(特段の見直しは行わない)
備考	

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input type="checkbox"/> 事業費削減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減 (千円)
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの削減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	